



# 「いきいき絵本コンテスト」

## 受賞作品

今回、初めて「絵本コンテスト」を実施しましたが、すばらしい作品がたくさん寄せられました。

皆さんにご覧いただきたいと思い、いきいき賞の『ごっこあそび』を製本して、市内の保育園・児童館・図書館へ配布いたします。

ぜひ一度、お手にとって読んでみてください。

### 佳作

#### 『もしもヒゲがあったなら』

文・絵：なかむらゆずる



「わたし」はヒゲがほしくてたまらない。ある日、顔にヒゲを描いたら「おかしいゾ」と言われてしょんぼり。そこで家族が「ヒゲの日」を作ってくれた。その日は、みんなで好みのヒゲを描いて楽しく過ごす。子どもの発想のユニークさを、いきなり性別で押さえつけないで自由に展開させて、また大人も一緒に楽しめるという絵本。

### 佳作

#### 『みんなであそぼ』

文・絵：あおいともえ



ミミちゃんは男の子たちと遊びたくて仕方がないが、「女の子は入れてあげないよ」と言われてしまふ。そこで男の子に変装して仲間に入れてもらうことに成功。でも、遊んでいるうちに変装がはがれてばれてしまう。男の子と女の子が遊びを通じて自然に溶け込めれば、大人になっても仕事や家庭で協力し合えるのではないかとという絵本。

### いきいき賞

#### 『ごっこあそび』

文：かわいとしみ 絵：かわいもみじ



「お母さんごっこ」をするようになった姉弟。お父さん役になった男の子は、会社から帰ってきて、家のことはお母さんが全部やってくれるので、ちよっぴりつまらない。でも、休みの日には洗濯や掃除をしたり、キャンプに行けばご飯を作ってくれるお父さんのことを思い出し、「お父さんも楽しいな」と嬉しくなる絵本。

この絵本を作るきっかけや、思いを教えてください。

子どもたちの「ごっこあそび」の中で、気になることが2つありました。まずは、お父さんがめったに出てこないこと。それから「男の子はごっこするもの、女の子はごっこするもの」という思い込みが、自分の子どもたちの中にも強烈にあるなあと感じたことです。男の子も自立した生活をすることは、とても大切だと思うので、きちんと家事ができるようになってほしいと思いました。また、お父さんの存在感を認識してもらうためにも、「お父さんごっこ」が子どもたちの間で広まるというのいいなと思って作りしました。

今回、応募されたどの作品も、ふだんは気にもとめないような生活の一部分を、男女共同参画の題材としてうまく取り上げてあり、皆さんの目のつけどころに驚かされました。その中でも「ごっこあそび」は、性別による思い込みを子どもの視点でうまく表現し、かつ、お父さんにスポットをあてたというおもしろい作品です。受賞おめでとうございます。